

韭 工 ニュース

県立韭崎工業高等学校 総務部
第 140 号 2016.02.01

12年連続学校推薦就職 100%達成
教材教具引き渡し
活躍する山岳スキー部
献血に協力

今年度も学校推薦者就職内定100%達成

昨年12月、今年度も就職内定率100%を達成しました。経済状況の好転により、採用を抑えていた企業も長期的に人材を育てようという機運が高まり、高校生の採用にも大きな追い風になりました。本校への求人は、昨年にも増して出足から好調で、近年にない来校求人への対応に追われました。県内求人件数は公開（WEB）求人を含め323件と昨年比7%増、県外求人は400件を超えました。就職試験に対する指導は年々強化されています。学科・学年を中心に面接指導・学習指導に重点を置き、時間を確保して就職指導を進めています。就職戦線に対する生徒の意識の高揚を図ることにより、次々と内定を勝ち取り、一次応募の合格率は二年連続90%を超え、素晴らしい結果を得ることができました。

今、本校には「工業高校の強さと魅力」があります。製造業の求人が増え、工業高校の生徒は企業に自分の実績をアピールすることができます。技能・技術、資格、諸活動などが当然大きな"武器"になります。大切なことは、「なれる自分」ではなく「なりたい自分」へ意識を変え、努力することです。やがて、その行動は結果として表れるでしょう。1、2年生も自分を高める取り組みを続け、やがて来る就職・入学試験に向けて欲しいと思います。

18回目の教材教具引き渡し式・交流会

本校は17年前からあけぼの支援学校との交流の一環として教材・教具の製作をしています。

本校生徒12名が去る1月20日（水）に今年度製作した作品で、キーボード台、まが玉机、キャスターボックスなど7品目20点の教材教具を届けました。この事業は、あけぼの支援学校の先生からのスケッチを元に設計図を書き、実際に製作することが目標ですが、使う人の立場になって製作することの大切さや、加工の難しさを生徒自身が体験しています。また交流会では、製作した教材教具を授業で実際に使い、どの様に使われているのかを体験してきました。参加した生徒は、

「僕たちが造った製品がこんなに役に立っていることを知り、本当にうれしく思いました。社会人として物を造る時は使う人が喜んでくれる物を造っていきたいと思います。」と言っていた。

活躍する山岳スキー部

【県高校総合体育大会スキー競技】

1月6日～8日に長野県野沢温泉上ノ平クロスカントリーコースで開催されました。山岳スキー部から10名の選手がクロスカントリー競技に出場しました。クロスカントリースキーは雪上のマラソンとも言われ、体力と忍耐力が必要な競技です。走法にはスキーを徒歩と同じように左





右交互に滑らせる（スケーティングが禁止）「クラシカル走法」と滑走方法に制限のない「フリー走法」の2種類があります。選手たちは春・夏・秋は山で体力作りをし、冬の長期合宿では雪の積もった森林や丘陵の中に設けられたコースで技術を身に付けます。大会の結果は学校対抗の部で2位と7連覇を逃し悔しい思いをしましたが、個人種目ではフリー10kmで篠原正輝君が優勝、中込大志君が3位、クラシカル10kmで篠原正輝君が優勝、中込大志君が2位、天谷岳君が3位、リレー（4×10kmフリー）は篠原正輝君、中村優作君、中込大志君、天谷岳君のメンバーで優

勝しました。大会では年末の長期合宿の成果を十分発揮することができました。来年は学校対抗の部でも優勝できるように頑張ります。

【関東高等学校スキー大会】

1月25日～27日に群馬県水上高原スキーリゾートクロスカントリーコースで開催されました。県総体が関東大会の予選を兼ねており9名が出場しました。フリー10kmで天谷岳君の15位が本校の最高位でしたが、クラシカル10kmで天谷岳君が10位入賞、リレー（4×10kmフリー）は中村優作君、中込大志君、天谷岳君、小澤唯斗君のメンバーで3位入賞することができました。また、学校対抗の部では9位でした。今年は2種目で入賞し来年に繋がる滑りができたと思います。2月4日からの全国大会（青森県）では昨年以上の結果が残せるように頑張ります。

献血に協力

平成27年12月3日、本校において2，3年生・教職員を対象に「献血」が行われました。献血に協力の意思を示してくれた生徒・教職員は52人いました。そのうち47人から献血されました。内訳は200ml－7人、400ml－40人でした。



採取された血液の量は総量17400mlで、350mlのペットボトルに換算すると約50本分にあたります。輸血が可能な血液の有効期限は3カ月しかなく、それを過ぎると血液検査等の材料にしかありません。そのため、常に新鮮な血液が必要とされます。また、冬場は感染症が流行し、血液が不足するため、こうした献血は山梨県赤十字血液センターの方から大変感謝されました。本校は、長きに渡り献血に協力してきたその功績が認められ、平成26年度第50回献血運動推進全国大会・愛知県大会において、山梨県の代表として「厚生労働大臣表彰状」を授与されました。玄関内側の各種表彰状の中に掲示してありますので何かの折にご覧ください。なお、献血の際に必ず献血可能かどうかの事前検査を実施しますが、今年度は、血沈が低く（血液が薄い）献血不可能と判断された生徒が5人いました。献血は助け合いの精神で成り立っています。各自の善意で献血の意思を示していただきましたが、生徒たちにとって自分自身が健康でなければ他者の健康に貢献することは難しく、日頃より自分の健康状態を意識することを学ぶ機会にもなってくれたら幸いです。

URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>

e-mail info@nirasakith.kai.ed.jp